

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和7年第23週 (6月2日～6月8日)

インフルエンザB型の報告が続いています

今週の竹田市調査医療機関からの報告数は7名でした。先週の8名と比較し、やや減少していますが、先週に引き続き罹患者はすべて15～19歳の年代となっており、全例インフルエンザB型の報告でした。大分県全体では、0.22と先週の0.50から減少傾向です。

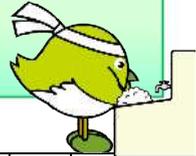
インフルエンザは、主に冬季に流行しますが、近年は季節外れの流行もみられます。感染を広げないためには、手洗いやうがいなどの基本の感染対策と咳エチケットに気をつけましょう。室内のこまめな換気も重要です。エアコン使用時などは、定期的に換気を行い、閉め切った状態が続かないようにご注意ください。

百日咳にご注意ください

全国的に百日咳が流行しています。大分県全体では、2025年の第1週から第22週までに136人(速報値)が報告されており、例年に比べて診断される人が多くなっています。年齢階級別では、10～14歳が52%、15～19歳が22%と小中学生～高等学校世代に多く報告されています。豊肥保健所管内では、第22週に4名、第23週に1名の報告がありました。

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とします。通常7～10日の潜伏期間を経て、普通のかぜ症状で始まる「カタル期」(約2週間持続)、特徴のある発作性のけいれん性の咳が出る「痙咳(けいがい)期」(約2～3週間持続)、激しい発作性の咳が減衰し回復に向かう「回復期」(2・3週間～数か月)がみられます。主な感染経路は飛沫感染ですが、接触感染にも注意が必要です。咳が出るときはマスクを着用する等の咳エチケットのほか、手洗いや手指消毒、うがいなどの感染対策を行いましょう。また、予防接種が非常に重要で、生後2か月以降に計4回、定期予防接種である4種(5種)混合ワクチンを行うことで、重症化を防ぐことができます。

詳しくは、大分県のHPをご覧ください。 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/12220/hyakunitizeki.html>



(第23週) (調査医療機関8か所の総患者数：ただし1医療機関は休診中)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳																			
4～6歳																			
7～9歳																			
10～14歳																			
15～19歳		7																	
20歳以上				1															
今週		7		1															
70歳以上(再掲)		7		1															
先週		8						1											

